# 地理歴史（世界史探究）学習指導案

日時　　：令和８年12月１日（火）
実施場所：鹿児島県立加世田高等学校
　　３Ｆ多目的②教室
指導者　：小畑　是也（地歴・公民科）
実施学級：３年２組・３組（「世界史探究」選択者）
使用教材：『世界史探究』（東京書籍）
使用副教材：『グローバルワイド　世界史図表』
　　（第一学習社）

1. 単元名　　**第18章　国際協調体制の動揺と第二次世界大戦**

2. 指導の立場

| | |
|---|---|
| 教材観 | 各国の世界恐慌への対応の特徴やファシズム国家成立の要因や動向、国際協調体制の動揺の要因を考察したり、表現したりすることができる。また、第二次世界大戦が始まった背景と性格その惨禍、世界大戦下の社会状況や人々の生活について日本の動向と関連づけながら考察したり、表現したりすることができる。さらに第二次世界大戦後の国際秩序について考察したり、表現したりすることができる。一連の理解を通して、今もある戦争と関連づけて、戦争を起こさないためには何が大切かを考察したり、表現したりすることで、反戦に対する思いを強く滋養することができる単元である。 |
| 生徒観 | 本校では2年生から世界史探究を選択するが、３年生の文系選択者は12名と他の科目に比べると選択していないのが現状である。基本的な歴史的な知識が定着していない生徒や断片的な知識しか持たない生徒も見受けられるが、明るく素直な生徒が多く、授業中も常にまわりと話し合い、協働して考察しようとする雰囲気がみられる。 |
| 指導観 | 歴史総合での既習知識を活用しつつ、国際協調体制の動揺の過程、第二次世界大戦の性格、第二次世界大戦後に構築された国際秩序などについて資料を用いて多面的・多角的に考察し、文章で表現できる力を身につける。その際、ペアワークやグループ活動を通して、互いに意見を出し合い、他者の意見や考え方を取り入れながら、自分の意見を構築できる力を身につけるように指導する。 |

3. 単元目標

世界恐慌に対する諸国家の対応策の共通点と相違点、ファシズムの特徴、第二次世界大戦に向かう国際関係の変化の要因、第二次世界大戦中の連合国による戦後構想と大戦後の国際秩序との関連などを考察したり表現したりして、国際関係の緊張と対立、第二次世界大戦の展開と諸地域の変容を構造的に理解する。

4　単元の評価規準

| 観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 評価基準 | ・世界恐慌と政治・経済の変容とそれに伴うファシズムの起こりと拡大、さらに国際協調体制の動揺と国際関係の緊張・対立を構造的に理解している。<br>・第二次世界大戦の展開と、大戦後の国際秩序、冷戦がはじまる過程とそれにともなう諸地域の変容を理解している。 | ・世界恐慌に対する諸国家の対応策の共通点と相違点、ファシズムの特徴、第二次世界大戦に向かう国際関係の変化の要因を考察し、表現している。<br>・大戦後の国際秩序の形成過程、冷戦がどのようにはじまり展開したか、冷戦が諸地域に与えた影響を考察し、表現している。 | ・世界恐慌が政治・経済に与えた影響、ファシズムが起こり拡大した背景、国際協調体制の動揺、国際関係が緊張・対立へ向かった背景、さらに大戦後の国際秩序の形成過程や特徴について、自ら課題を設定し、他者と対話・協働しながら主体的に追及しようとしている。 |

5. 単元の指導と評価の計画（全11時間）（○…評定に用いる評価、●…学習改善につなげる評価）

| 時 | | ねらい・学習活動 | 知 | 思 | 態 | 評価規準等 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 単元の導入 | 1時間 | 単元を貫く「問い」を立てる。<br>第二次世界大戦の図や資料を見ながら、大衆の視点にたって自らの「問い」を考察し、対話的・協働的活動を通して「問い」を練り上げていく。 | | ● | ○ | 【態】第二次世界大戦が図や資料を見ながら、大衆の視点から探究したい課題を意欲的に発見している。他者との対話・協働を通じてその課題を深めることができる。 |
| 単元の展開 | 2時間 | 世界恐慌と政治・経済の変容<br>世界恐慌が各国に深刻な影響を与えたことと各国の恐慌対策について理解し、共通点と相違点を考察する。ドイツではファシズムが台頭してきたことを理解し、その背景を考察する。 | ○ | ● | | 【知】世界恐慌に対する各国の対応策につて理解している。<br>【思】各国の恐慌対策の共通点・相違点を考察し表現できる。ドイツでファシズムが台頭した背景を意欲的に考察し表現できる。（ワークシート） |
| | 2時間 | 協調体制の動揺<br>恐慌後のドイツ・イタリア・日本の動向と国際連盟が有効な措置をとれなかったことについて調べ、ヴェルサイユ・ワシントン体制が動揺していった背景について資料を見ながら考察する。 | | ● | | 【思】ヴェルサイユ・ワシントン体制に不満を持つ独・伊・日が軍事力を増大させ、勢力圏の拡大を図り、国際社会が効果的な抑止策が取れなかったことが国際協調体制の動揺につながったことを意欲的に考察し、表現できている。（ワークシート） |
| | 3時間 | 第二次世界大戦の開戦と展開<br>第二次世界大戦勃発の原因と展開、連合国の形成と戦後国際秩序構築への動きを理解するとともに、戦線の広域化、核兵器の使用など甚大な被害をもたらした戦争であったことを理解する。 | ○ | | | 【知】ドイツの侵攻により第二次世界大戦が勃発し、アジアや太平洋の戦争と連動して大戦が展開され、被害が甚大になったことを理解できている。連合国を中心にとした国際秩序を形成する動きがあったことを理解できている。（単元テスト） |
| | 2時間 | 戦後秩序構想と冷戦の形成<br>連合国の終戦へ向けた政治過程と国際連合などの国際政治・経済秩序が形成されていったことを理解する。連合国の協調関係が大戦後に崩れ、ヨーロッパで冷戦がはじまっていくことを理解する。 | ○ | | | 【知】大戦中、連合国が会談を重ね、国際秩序を形成していったことを理解している。国際連合の創設やブレトン=ウッズ体制といった米主導で国際政治・経済の秩序が構築されていったことを理解できている。冷戦がはじまった背景を理解している。（単元テスト） |
| 単元のまとめ | 1時間<br>本時 | **戦争と私たち【本時】**<br>第二次世界大戦の回避が可能だった分岐点について「問い」を立て,その歴史的過程の分析を通して、現代起こっている戦争との類似性を探究し、平和を実現するために「私たち」は何をすべきか。主体的に考察・表現している。 | | ○ | ○ | 【態】　第二次世界大戦が起こった経緯について関心を持ち、大衆の視点で第二次世界大戦に至るまでの歴史的経過が分析できている。第二次世界大戦の勃発の経緯を現代の戦争と関連づけながら考察し、国際社会の平和の実現について意欲的に探究している。（ワークシート） |

6. 本時案

⑴ 本時の目標

① ヴァイマル共和国の民主政の崩壊からナチ党の独裁体制の確立、第二次世界大戦の勃発に至る歴史的過程を分析し、戦争回避の可能性があった歴史的分岐点について、自ら「問い」を立てて、対話的・協働的な活動を通してその「問い」を検証し、考察した内容を論理的に表現することができる。

② 第二次世界大戦に至るまでの経緯と現在起こっている戦争との類似性を探究し、平和を実現するために「私たち」は何をすべきかについて、主体的に考察し表現できるようにする。

⑵　本時の展開

| 時間 | 学習内容・学習活動 | 指導上の留意点 | 評価の規準・方法 |
|---|---|---|---|
| 導入<br>5分 | 学習課題（テーマ）の提示<br>・単元の最初で立てた「問い」を提示し本時のテーマに入る。<br>・ヴァイマル共和国は民主的な国家であったが、国民の支持を受けたナチ党が台頭し、第二次世界大戦へ向かっていった。「もし、第二次世界大戦を回避できた分岐点があるとすればどの時点だったか」について個人の「仮説」を持ち寄り、グループで「仮説」を検証していくことを指示する。 | ・ヴァイマル共和国成立から第二次世界大戦勃発までを８期に分けた別紙【資料】を示し、年表や資料や図版を参考にして、どのタイミングでどのような行動をとれば戦争が回避できたのか考察させる。<br>・生徒は予習の段階でワークシートのテーマ１のＡ・Ｂまで自分の意見をまとめてきているので確認をする。 | ・予習の段階でワークシートＡ・Ｂに自分なりの「仮説」を立てている。（ワークシートＡ・Ｂ）【態】<br>・資料から適切な情報を読み取り、テーマについての自分なりの「仮説」を立てている。（ワークシートＡ・Ｂ）【思】 |
| 展開Ⅰ<br>15分 | グループでの協議・探究<br>・ワークシートに記入した各自が立てた「仮説」を持ち寄り、グループ内で「検証」する。<br>・グループ内で「仮説」を「検証」し、グループで出した１つの結論（検証結果）をワークシートＣに記入するとともに、タブレットに入力する。 | ・学習活動が進まないようであれば机間指導をし、資料のポイントを伝えて助言する。<br>・深く探究したいことがわればAI等を活用させて調べさせる。<br>・グループ内で確実性の高い結論（検証結果）を導けるように助言する。 | ・協議に積極的に参加し、他者の意見を尊重ながら自分の意見を適切に表現している。【態】<br>・グループ内で結論をまとめている。（ワークシートＣ）【思】 |
| 展開Ⅱ<br>5分 | 発表<br>・各グループで考察した結論（検証結果）について発表する。 | ・グループごとにタブレットに入力した内容をスライドに投影し発表する。（LiveQを使用する。） | ・根拠を明確にして、わかりやすく説明している。（スライド・ワークシートＣ）【思】 |
| 展開Ⅲ<br>15分 | グループでの探究<br>・ワークシートのテーマ２で、ロシアのプーチン大統領とヒトラーの類似点を考察することを通して、「ロシアのウクライナ侵攻」と「第二次世界大戦」の勃発に至るまでの経緯の類似点についてグループで探究する。 | ・ロシアのウクライナ侵攻に至るまでをまとめたテーマ２の資料を示し、ウクライナ侵攻と第２次世界大戦が勃発した経緯の類似点を考察させる。<br>・学習活動が進まないようであれば机間指導をし、資料のポイントを伝えて助言する。<br>・深く探究したいことがわればAI等を活用させて調べさせる。 | ・協議に積極的に参加し、他者の意見を尊重しながら自分たちの意見を適切に表現している。【態】<br>・グループで２つの戦争が勃発するに至った経緯の類似点及び戦争を防ぐためには何が大切かについて深く考察している。（ワークシートテーマ２）【思】 |
| 展開Ⅳ<br>5分 | 発表<br>・各グループでテーマ２について考察した内容について発表する | ・グループごとにタブレットに入力した内容をスライドに投影し発表する。（LiveQを使用する。） | ・根拠を明確にして、わかりやすく説明している。（ワークシート・テーマ２）【思】 |
| まとめ<br>5分 | 本時のまとめ<br>・ワークシートのテーマ３について「問い」を立てる。 | ・「戦争を防ぐために、「私たち」はどのようなことに気をつけないといけないか」について、今日の授業で考察したことをもとに自分なりの「問い」を立てさせる。 | ・テーマについて、自分なりの「問い」を積極的に立てている。【態】<br>・テーマについての自分の考えを深め、表現している。【思】 |

７　評価の目安と目標実現のための手立て

思考・表現・判断

| | | |
|---|---|---|
| A | 十分満足 | 第二次世界大戦の勃発に至る歴史的経緯を多面的・多角的に分析し、戦争回避の可能性のあった歴史的分岐点について、資料や歴史的事実を根拠にして、論理的に自らの「問い」を立て、表現している。その際、民主政が崩壊し独裁体制が確立されたことで戦争に至っていく歴史的経緯を考察し、さらにそれを現代の国際情勢と関連づけ、平和を実現するために主権者として何をすべきかについて具体的に自分の考えを表現している。 |
| B | おおむね満足 | 第二次世界大戦に至る歴史的経緯を理解し、戦争回避の可能性のあった歴史的分岐点について、自分の「問い」を立て、表現している。さらに、第二次世界大戦に至った歴史的経緯と現代の国際情勢を関連づけ、平和を実現するために主権者として何をすべきかについてについて自分の考えを表現している。 |
| C | Ｂを満たさない生徒への具体的な手立て | 資料の読み取りや考え方の整理が難しい生徒には、年表や資料の重要箇所を説明するとともに、歴史的なつながりについて助言を与える。また、グループ内で他者の意見を参考にしながら、自分の考えをまとめられるように支援する。 |

主体的に学習に取り組む態度

| | | |
|---|---|---|
| A | 十分満足 | 第二次世界大戦の歴史的経緯と現代の戦争との関連に興味を持ち、意欲的に自ら問いを設定し、他者との対話や協動を通して積極的に考察を深めようとしている。 |
| B | おおむね満足 | 第二次世界大戦の歴史的経緯と現代の戦争との関連に興味を持ち、グループでの話し合いや発表に参加しながら、他者の意見を参考にして自分の意見を深めようとしている。 |
| C | Ｂを満たさない生徒への具体的な手立て | 課題への関心が十分でない生徒には、身近な問いかけや資料の解説によって興味・関心を促す。グループ活動においてはグループ内で役割がまわるように助言し、主体的に学習に参加するように支援する。 |

【資料】

**第 1 期　ヴァイマル共和国成立期（1919 年）**

1919 年　**ヴァイマル憲法**が発布され、ドイツの初の共和国である**ヴァイマル共和国**が成立した。ヴァイマル共和国は当時「世界一民主的な憲法」といわれたが、非民主的な内容も含まれるものであった。

| 年 | 月 | 出来事 | 説明 |
|---|---|---|---|
| 1919 | 1 | ドイツ共産党の蜂起 | 臨時政府により鎮圧される。 |
| | 8 | **ヴァイマル憲法**施行<br>**ヴァイマル共和国**成立<br>**エーベルトが大統領領に就任。** | 一次大戦後のドイツは左派と右派の勢力が政府の転覆を狙う不穏な状況であった。 |

---

**第一次世界大戦後のドイツの状況**

ドイツ革命と敗戦で混乱したドイツでは、右派や左派などの諸政治勢力が激しく衝突した。1919 年の初めには社会主義革命を目指すドイツ共産党がローザ=ルクセンブルクやリープクネヒトを指導者に蜂起したが、社会民主党政権は軍部などの保守勢力と提携し、これを鎮圧した。




**ヴァイマル憲法（1919 年）**

ヴァイマル憲法と民主的な部分と非民主的な部分はどこだろうか？

第 1 条　ドイツ国は共和国である。国家権力は国民に由来する。

第 22 条　議員は、普通、平等、直接および秘密の選挙において、…満 20 歳以上の男女によって選出される。

第 48 条　…ドイツ国内において、公共の安全および秩序に著しい障害が生じ、またその恐れががあるときは、ライヒ大統領（ドイツ大統領）は、公共の安全および秩序を回復させるために必要な措置をとることができ、必要な場合には、武装兵力を用いて介入することができる。

（歴史研究会編『世界史史料 10』岩波書店）

## 第２期　ナチ党結成期（1920 年～1922 年）

一次大戦から復員したヒトラーはナチ党の前身となる極右政党の宣伝部へ入り、演説の巧みさから、やがて改組されたナチ党の主要メンバー、さらには党首へと駆け上っていった。

| 年 | 月 | 出来事 | 説明 |
|---|---|---|---|
| 1920 | 2 | ヒトラー、ミュンヘンで政治活動開始。ナチ党を改変、二十五カ条綱領（ナチ党の活動方針）を公表。 | 生活の不安に悩む旧中間層（農民・手工業者・商人・青年層）に支持される。 |
| 1921 | 8 | ヒトラー、ナチ党の独裁的党首となる。 | ナチ党の党員数 1920 年の 3300 人から 1922 年には 6000 人へ倍増。 |

---

### ヒトラーの演説

われわれは（われわれの運動を）国家（民）社会主義と名づけた･･･。国家とは何よりもまず団結して行動し、われわれの民族すべてを愛し、もし必要ならばそのために死ぬことさえ意味する。・・・

（福井憲彦監修『フランスの歴史』（近現代史フランス高校教科書）

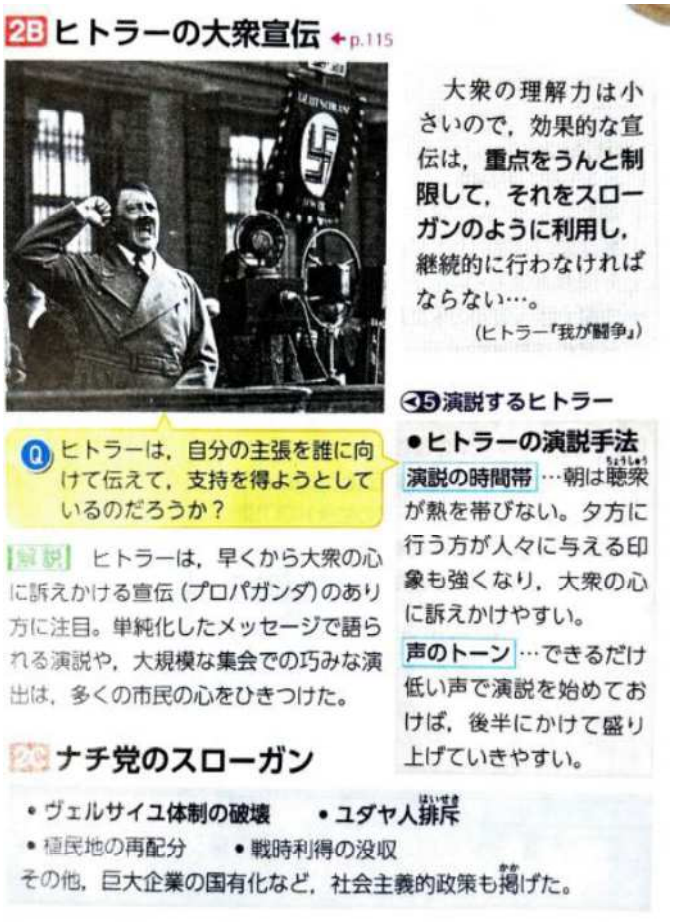
### ナチ党の二十五カ条綱領（1920．2）

2．われわれは、他国民に対するドイツ民族の平等権を要求し、ヴェルサイユ条約およびサンジェルマン平和条約の破棄を要求する。

4．ドイツ民族同胞たるもののみが、ドイツ国公民たりうる。･･･したがってすべてのユダヤ人はドイツ民族同胞たりえない。

8．非ドイツ人のこれ以上の流入はすべて阻止されねばならない。･･･ドイツ国に流入したすべての非ドイツ人を、即時強制的に国外に退去せしめ

※これを読み、あなたはどう思いますか？



## 第３期　1923 年の危機

1923 年の１月からはじまった**ルール出兵**とそれにともなう労働者の組織的なストライキにより、生産活動が麻痺し、**破局的インフレ**が起こった。物価の極度の高騰と失業者が増大し、国民の共和国への不満が高まる中、極右勢力の活動が活発化した。ヒトラーは政権を掌握すべく**ミュンヘン一揆**を行ったが失敗した。

| 年 | 月 | 出来事 | 説明 |
|---|---|---|---|
| 1923 | 1 | フランス・ベルギーによる**ルール占領**。この年、**破局的インフレ**が起こり、国民生活は混乱した。 | 失業率は 28%　共和国への不満が高まる。ナチ党の党員数 5 万 5000 人。党員はミュンヘンから全ドイツに拡大していく。 |
| | 8 | **突撃隊**（SA）が誕生 | 突撃隊はナチ党の軍事組織。当時、各党が自衛の軍事組織を持つことはよくあった。集会の警備や他党との抗争で活躍。 |
| | 11 | ナチ党、**ミュンヘン一揆**を起こすも失敗する。ヒトラーは逮捕され、ナチ党の活動は禁止となる。 | ベルリンの政府を転覆し極右政権を実現しようとクーデターを企図するが失敗。ヒトラーは獄中で『わが闘争』を記し、「大衆宣伝」と「組織」の重要性を認識する。 |

ルール占領（1923 年）



破局的インフレ



| 1kgのライ麦パンの値段 (年月) | (マルク) |
|---|---|
| 1914.12 | 0.32 |
| 18.12 | 0.53 |
| 22.12 | 163.15 |
| 23. 4 | 474 |
| 23. 6 | 1428 |
| 23. 8 | 6万9000 |
| 23. 9 | 151万2000 |
| 23.11 | 2010億0000万0000 |
| 23.12 | 3990億0000万0000 (1914年の1.2兆倍) |

ミュンヘン一揆




▲④**右派勢力ナチ党**　ドイツ労働者党を前身とする**ナチ党**は，1923年，共和国をクーデタで倒そうとし，失敗した(**ミュンヘン一揆**)。以後ヒトラーは宣伝や行動を通して選挙による政権掌握をめざした。

突撃隊（SA）



←写真は後の 1933 年にナチ党が政権を取った時の突撃隊。

ヴェルサイユ条約でドイツは陸軍が 10 万人までに制限されため、解雇された退役軍人や経済苦境に苦しむ失業した若者に給与と食事を提供し、その受け皿として拡大した。ナチ党の政敵の妨害が役割で、主に共産党や社会民主党の集会を襲撃し、暴力で解散させた。また、ナチ党の集会の警護と宣伝も担った。

## 第４期　ナチ党再興期（1924 年～1928 年）

ルール占領によるインフレが収拾しドイツは経済復興期に入る。経済不安による国民のヴァイマル共和国への不満は解消され極右系の政治運動も下火となる。ナチ党はこの時期はまだ弱小政党に過ぎなかった。

| 年 | 月 | 出来事 | 説明 |
|---|---|---|---|
| 1924 | 12 | ヒトラー出獄 | |
| 1925 | 2 | ナチ党再建される。 | ヒトラーは組織の充実に専念し突撃隊（SA）を強化。この時のナチ党は 3 議席。 |
| | 4 | エーベルトの急死を受けて、**ヒンデンブルク大統領に就任** | 右派勢力が元将軍のヒンデンブルク（77 歳）を支持。 |
| 1928 | 5 | 選挙で**社会民主党**躍進。<br>ナチ党 12 議席。2．４％の支持率。 | ドイツ経済好況。失業率は５％ |

※　この時期、ナチ党は集会を各地で頻繁に開き、宣伝ポスター・パンフ・新聞を大量に配布。

---

ヒトラーが獄中で書いた政治思想『わが闘争』

ユダヤ人は自分が占めた土地を明け渡すなど全く考えずに、居座り続け、彼らを追い出すには暴力しかないというほどに定住してしまった。…彼らは典型的な寄生虫であり、そしてそうあり続けている。…

ただ健全であるものだけが、子どもを産むべきで、病気であったり、欠陥があったりするにもかかわらず、子どもをつくることはただ恥辱であり、むしろ子どもを産むことを断念することが、最高の名誉である、ということを民族主義国は留意しなくてはならない。…

われわれ国民社会主義者は、600 年前に到達した地点から出発する。われわれはヨーロッパの南と西へ向かう永遠のゲルマン人の移動を止め、東方の土地に視線を向ける。

（歴史学研究会編、木畑和子訳『世界史史料 10』岩波書店）

**1925 年の大統領選（第 1 回は過半数に届かず第 2 回投票）**

| 立候補者 | 主な支持勢力 | 得票数 | 得票率 | 結果 | |
|---|---|---|---|---|---|
| **ヒンデンブルク** | **右派（ナチ党など）** | **1465 万票** | **48.3%** | **当選** | ヒンデンブルクは第一次世界大戦でロシアを破った将軍で国民の人気が高かった。ナチ党をはじめ右派政党が支持し、軍国主義や旧帝国へのあこがれをもつ保守層・農村層の票を集めた。 |
| マルクス | 中道の共和派連合 | 1375 万票 | 45.3% | 落選 | |
| テールマン | 左派（ドイツ共産党） | 193 万票 | 6.4% | 落選 | |

注：**ヒンデンブルクは後にヒトラーを首相に任命することになる大統領である。**

**1928 年の国会議員選挙のポスター**

社会民主党のポスター「死か、それともパンか」




ナチ党が平和な労働者家族を脅かしているショッキングなポスター。下には右派指導者ヒトラーの時代は終わったと書かれている

社会民主党

153 議席獲得　**第一党として大勝利（得票率 29.8%）**

ナチ党のポスター「仕事、自由、パン」




生活に直結するスローガンで非常にシンプル。生活苦に苦しむ労働者や農民に直接訴えかけている。下の文字はナチ党への投票を呼びかけている

ナチ党

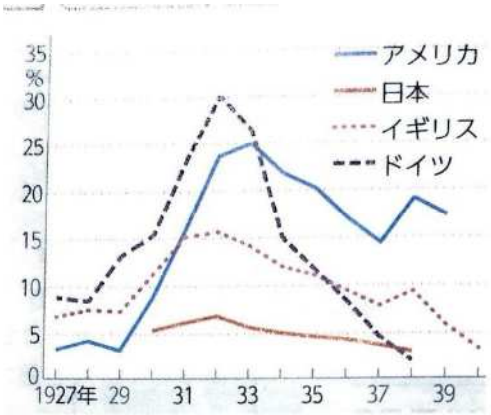
**12 議席獲得（得票率 2.4%）**

## 第５期　世界恐慌期（1929 年～1932 年）

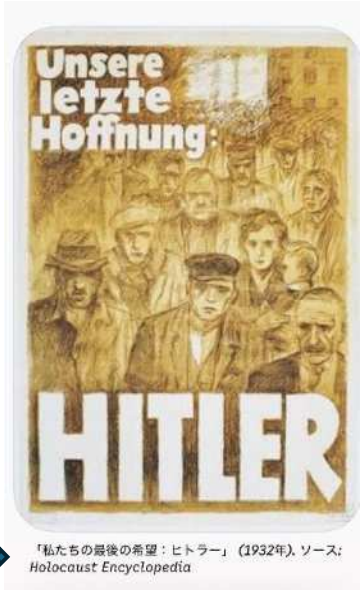
| 年 | 月 | 出来事 | 説明 |
|---|---|---|---|
| 1929 | 10 | **世界恐慌**勃発 | 失業者急増。失業者 200 万人以上。 |
| 1930 | 3 | ヒンデンブルク大統領大権に基づいて首相を指名。議会に拘束されない独裁支配体制が確立する。 | 議会の多数派に立つ内閣は終了。<br>大統領大権の時代へ。 |
| | 9 | 選挙でナチ党 107 議席。18.5%の得票率。大幅に議席を伸ばす。 | 失業者 400 万人以上に急増。ナチ党は農業不況で苦しむ農民から支持を受ける。 |
| 1932 | 1 | SS（ナチ党の親衛隊）の隊員数<br>77,000 人に（前年の 3 倍に増加） | 秘密警察（ゲシュタポ）や突撃隊（SA）や親衛隊（SS）による暴力的手段も活用。 |
| | 7 | 選挙でナチ党 230 議席。37.8%の得票率で初めて第一党へ | 失業者急増。失業者 600 万人以上。この時が恐慌の底。 |
| | 11 | 国会選挙でナチ党は 196 議席で議席を減らす。33.6%の得票率。 | 共産党が議席を伸ばす。 |

### 世界恐慌下のドイツ

ドイツにおける失業者の状態はどのようなものでしょうか。・・・・・・まちがいなくその窮乏の度合は、何週間にもわたってパンなしで生活している家族がいくつもあることで確かです。ジャガイモも不作のためになくなってしまいました。子どもたちは空腹のまま学校に通っています。　（世界史史料 10）

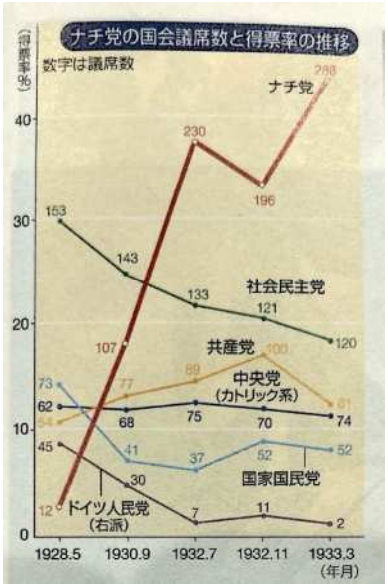


↑d各国の失業率の推移



1932 年のナチ党の選挙ポスター ➡

（「最後の希望ヒトラー」）




### 元銀行員の回想

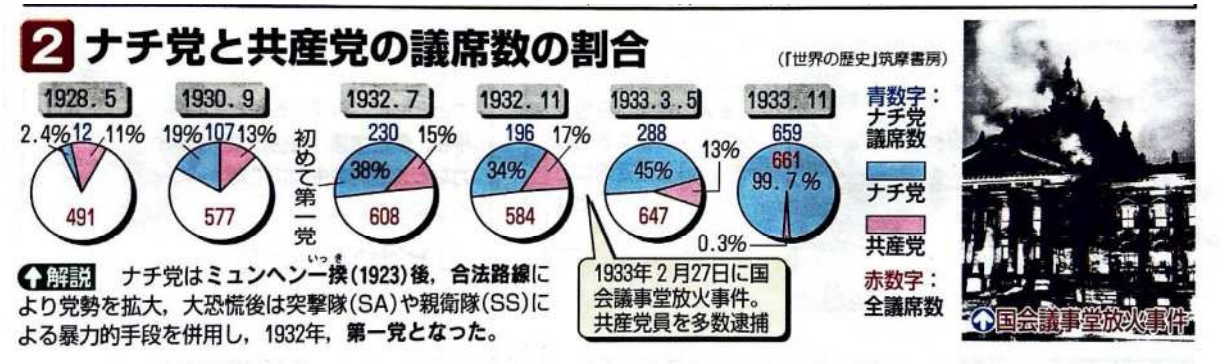
ボリシェヴィズム（共産主義）は、奴隷状態や魂の死を意味するような気がしました。ナチズムに賛成するかどうかなど、問題ではありませんでした。ナチズムが、唯一の防御のような気がしたのです。そこでの選択でした。

（マイヤー著　田中浩　金井和子訳『ぼくらは自由だと思っていた』）

## 第６期　ナチ党政権獲得期（1933 年）

首相になったヒトラーは国会議事堂放火事件を口実に大統領緊急令により国民の人権を制限し、共産党を弾圧して全権委任法を制定し国会を無力化した。ナチ党以外の政党は禁止され、言論統制は強まり、ユダヤ人の迫害も本格化していった。

| 年 | 月 | 出来事 | 説明 |
|---|---|---|---|
| 1933 | 1 | ヒンデンブルク大統領ヒトラーを首相に任命。右派政党と連立内閣形成。ヒトラーはナチ党の勢力拡大を期してただちに国会を解散。 | ナチ党を中心とした連立政権は過半数に満たない少数与党政権であった。 |
| | 2 | **国会議事堂放火事件**。ヒトラーは大統領に諮り、大統領緊急令を出し、基本的人権を制限する。 | 放火を共産党員の仕業として、大統領緊急令を根拠に共産党員を２万人逮捕する。 |
| | 3 | 国会選挙が実施され、43.9%の得票率で第一党へ。 | 残り 56.1%の有権者はナチ党をまだ支持していなかったが、ヒトラーは大勝利と宣言する。 |
| | | **全権委任法**成立が３分の２以上の賛成で可決。（共産党議員不在のため可決にこぎつけられる） | 内閣に立法権が与えられ、国会は無力化し、ヴァイマル共和国は実質的に崩壊する。 |
| | 7 | 新党設立禁止法 | ナチ党以外の政党は解散させられる。 |
| | 10 | **国際連盟脱退** | 軍事上の平等を主張し軍備拡大政策へ向かう。 |




**全権委任法**

**１　ドイツ国の法律は憲法に規定されている手続きによるほか、ドイツ国政府によっても制定される。**

**２　ドイツ国政府によって制定された法律は、ドイツ国会およびドイツ国参議院の制度そのものを対象としない限り、憲法に違反しうる。**

**（『現代の歴史総合ーみる・読み解く・考え**



本を焼くナチ党　1933 年５月 10 日、宣伝層ゲッベルスに扇動された学生たちは、社会主義者やユダヤ人、自由主義者たちの書物を焼き捨てた。アインシュタイなど、多数の知識人が職を追われ、亡命をよぎなくされた



**破壊されたユダヤ人の商店**

反ユダヤ思想の下、多くのユダヤ人の商店やユダヤ教の教会が襲撃された。1933 年には強制収容書も設置され拘束者は２万人を超えた。

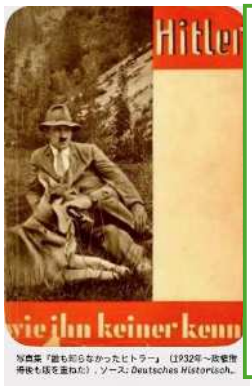
## 第７期　ナチ党体制確立期（1934 年～37 年）

ヒンデンブルク大統領が死去した後、ヒトラーは大統領職を兼ね、総統として独裁体制を固めた。**アウトバーン**の建設や再軍備宣言による軍需産業などの大規模な公共事業を興し、経済復興が実現しと失業率が低下した。同時に四カ年計画による軍備拡大が実施された。

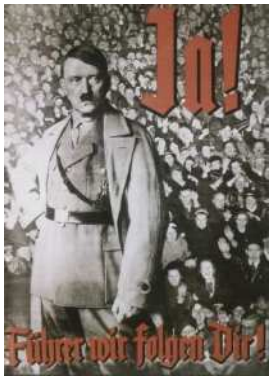
| 年 | 月 | 出来事 | 説明 |
|---|---|---|---|
| 1934 | 8 | ヒンデンブルク死去。ヒトラー、大統領職を兼ね、**総統**となる。 | ヒトラーは軍隊指揮権を獲得。 |
| 1935 | 1 | ザール地方併合 | 住民投票で合法的に併合 |
| | 3 | **再軍備宣言**（ヴェルサイユ条約違反）。徴兵制が復活。 | ドイツで軍需産業が興り、失業者が激減しだす（37 年には完全雇用実現）。 |
| 1936 | 3 | **ラインラント進駐**（ロカルノ条約違反） | 英仏はドイツ軍を警戒し、制裁をせず。 |
| | 10 | **ベルリン=ローマ枢軸**の形成 | スペイン内乱の介入をきっかけにファシズム諸国が接近しだす。 |
| 1937 | 11 | **日独伊三国防共協定** | |

---

### 宣伝相によるプロパガンダ（ヒトラーの偉業や日常が宣伝された。）




1932 年のヒトラーの写真集。庶民的な姿で大衆に親しみが持てるように工夫されている。政権獲得後は増刷された。




1934 年のポスター。「総統よ，我らはあなたに従う！」のことばが書かれている。ヒトラーを国民統合の象徴にする意図がある。

### 国民の支持



青年と語るヒトラー（右）　ヒトラーは精力的に多くの人々と会見をこなした。若者たちはヒトラーをドイツを再生する指導者と期待していた。

### 公共事業による失業者対策

**軍事費の拡大**

| 年 | 単位 100 万ドル |
|---|---|
| 1933 年 | 452 |
| 1934 年 | 709 |
| 1935 年 | 1607 |
| 1936 年 | 2332 |
| 1937 年 | 3298 |
| 1938 年 | 7415 |

**アウトバーン建設**


10 公共事業の拡大
ヒトラーは公共事業拡大の１つとして、アウトバーン(自動車専用高速道路)を建設した。




フォルクスワーゲンの広告

「週５マルクの節約で車を手に入れられますよ。」

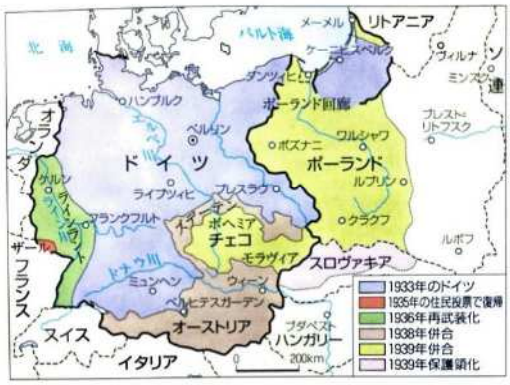
| 鉱夫の回想 | 牧師の回想 |
|---|---|
| 1936 年ごろが転換点だった。一般兵役が導入され、軍需がフル回転した。…みんな仕事とパンをふたたび手に入れて喜んだ。恐慌時代の窮乏生活はおわりを告げた。…しかし、多くの人々は気がついていた。ナチスが戦争に向かってまっしぐらに進んでいることを。<br>（山本秀行「ナチズムの記憶」） | ナチ党が共産主義を攻撃したとき、私は自分が多少不安であったが共産主義でなかったから何もしなかった。ついで学校が、新聞が、ユダヤ人等々が攻撃された。私は不安だったが、まだ何もしなかった。ナチ党はついに教会を攻撃した。私は牧師だったから行動した。ーしかし、それは遅すぎた。<br>（マイヤー著　田中浩　金井和子訳『ぼくらは自由だと思っていた』） |

## 第８期　対外侵略期（1938 年～39 年）

ドイツは周辺地域への領土拡大を実行し、ついに第二次世界大戦勃発へと向かっていく。

| | 月 | 出来事 | 説明 |
|---|---|---|---|
| 1938 | 3 | **オーストリア併合** | 住民投票で併合（99%の賛成）。大ドイツ主義建設に向けての一歩。英仏の反対もなく成功したことでヒトラーを称える。 |
| | 9 | **ミュンヘン会談** | 英仏の**宥和政策**によりズデーテン地方を併合。英仏はヒトラーに同調する。 |
| | 11 | 「水晶の夜」事件 | ドイツ全土でユダヤ人住居や商店が突撃隊によって焼き討ち破壊され、3 万 5 千人近いユダヤ人が強制収容所に送られる。 |
| | 3 | **チェコスロヴァキア解体** | チェコを併合し、スロヴァキアを保護国化する。 |
| 1939 | 8 | **独ソ不可侵条約**締結 | 英仏とソ連を同時に敵にまわすリスクを回避する。 |
| | 9 | **ポーランド侵攻** | 英仏が独に宣戦布告し、第二次世界大戦が勃発する。 |

### ドイツの領土拡大




⇑[5]ドイツの拡大と侵略



**ヒトラーへの熱狂的支持**　ナチ党は行事や集会において，たくみな演出をおこない，人々の情緒に訴える手法をとることが多かった。写真は歓喜の表情で支持を表明する女性たちの姿を伝えている。

### ミュンヘン会談後

イギリス



▲ミュンヘン会談後のチェンバレン　イギリスに帰国して飛行機から降り立ち，ヒトラーとの合意書をかざして，ドイツとの戦争はないと告げているところ。

ドイツ



ミュンヘン会談後、戦争をせずに領土を拡大したヒトラーを国民は熱狂的に出迎えた。

「戦争と私たち」ー第二次世界大戦は回避できなかったのかー　ワークシート

３年　組　　番　氏名

テーマ１　：　第二次世界大戦は回避することはできなかったのか？

ヒトラーの暴走を止めることができずに、第二次世界大戦は勃発した。では、もしヒトラーの独裁政治を防ぎ、第二次世界大戦の勃発を防ぐことができたとすれば、その歴史的分岐点はどこだったのだろうか。別紙資料を見て、自分なりの「問い」を立ててみよう。

ワークシートＡ（個人ワーク）

別紙資料のそれぞれの時期（第１期～第８期）に戦争を回避できた歴史的分岐点はないか、自分なりの「問い」を立ててみよう。

**第１期**で、もし戦争を止められたとすれば…

| |
|---|
| |

ではないだろうか。

**第２期**で、もし戦争を止められたとすれば…

| |
|---|
| |

ではないだろうか？

**第３期**で、もし戦争を止められたとすれば…

| |
|---|
| |

ではないだろうか？

**第４期**で、もし戦争を止められたとすれば…

| |
|---|
| |

ではないだろうか？

**第５期**で、もし戦争を止められたとすれば…

| |
|---|
| |

ではないだろうか？

**第６期**で、もし戦争を止められたとすれば…

| |
|---|
| |

ではないだろうか？

**第７期**で、もし戦争を止められたとすれば…

| |
|---|
| |

ではないだろうか？

**第８期**で、もし戦争を止められたとすれば…

| |
|---|
| |

ではないだろうか？

**ワークシートＢ**（個人ワーク）

ワークシートＡを踏まえ、第二次世界大戦を回避できた最も重大な分岐点はどこだろうか？

自分なりの「問い」を立ててみよう。

もし、戦争を回避できる分岐点があったとしたら、資料の第【　　】期の

| |
|---|
| （ではないだろうか？） |

そのように考える理由は・・・

| |
|---|
| （…だからである。） |

**ワークシートＣ**（グループワーク）

第二次世界大戦を回避できた最も重大な分岐点はどこだったのだろうか？　個人の意見をグループで共有し、グループで１つの「問い」を立ててみよう。

もし、戦争を回避できる分岐点があったとしたら、資料の第【　　】期の

| |
|---|
| （ではないだろうか？） |

そのように考える理由は・・・

| |
|---|
| （…だからである。） |

班長はタブレットにも入力しよう。

## テーマ２　現代の戦争を考えるー「ロシアのウクライナ侵攻」ー

2022 年 2 月 24 日、ロシアのプーチン大統領は軍をウクライナに侵攻させた。戦争は今なお続いている。２つの戦争の勃発の経緯の類似点はないだろうか？　下の資料や年表を参考に列挙してみよう。

| |
|---|
| |

**プーチン大統領演説**(2022 年 2 月 24 日)
問題なのは，隣接する土地に…それは私たちの歴史的領土であるが，私たちに敵対的な反ロシアがつくられようとしていることだ。



**1 プーチン大統領**(ロシア)
旧ソ連時代は KGB(政治警察)の諜報員としてドイツに滞在，ベルリンの壁崩壊を見て衝撃を受けた。エリツィンの後継者としてロシア連邦大統領になると権威主義体制をとり，強いロシアの再建をめざしている。



**2 クリミアの併合(2014 年)**

**2 クリミア半島の併合**(2014)　ソ連崩壊後も，ロシアはクリミアのセヴァストーポリ要塞にロシア艦隊を駐留させていた。2014 年，ウクライナの親ロシア政権が倒れると，ロシアはクリミア自治共和国を併合した。



**3 爆撃を受けたキーウ(キエフ)のショッピングセンター**(2022)　2019 年，ウクライナに親欧米のゼレンスキー政権が成立すると，プーチンはこれを極右・ネオナチと断定，東部のロシア系住民の保護を口実として，2022 年 2 月 24 日，ロシア軍をウクライナに侵攻させた。

### プーチン大統領の政権掌握過程

| 年 | 出来事 |
|---|---|
| 1991 | ソヴィエト連邦崩壊。ロシアは民主的な国家として出発する。 |
| | エリツィン、大統領に就任。ソ連崩壊後の経済混乱を回復することはできず。 |
| 1999 | エリツィン、大統領辞任。首相だったプーチンが大統領代行となる。 |
| 2000 | プーチン、民主的な大統領選で当選する。得票率は約 53%。 |
| 2001 | プーチン、メディアを国家統制下に置く。テレビ局の経営や人事に政権が影響を及ぼすようになる。ロシア経済は急成長する。 |
| 2004 | プーチン、大統領選挙で再選。得票率 71.3%。 |
| | 地方の知事を直接住民が選ぶ制度を廃止し、大統領が知事を任命する制度へ移行する。 |
| 2008 | 憲法の規定で大統領職をいったん退くが、首相として権限を持ち続ける。 |
| | 大統領の任期を 4 年から 6 年へ延長（2012 年のプーチン大統領就任から適用） |
| 2011 | 下院で与党が勝利したことで民衆は不正選挙を訴え、モスクワで翌年にかけて 10 万人規模とされる最大級の反プーチンの抗議デモ発生。 |
| 2012 | 大統領選挙を前に、プーチンの大統領復帰に反対する声が高まる。<br>プーチン、大統領に復帰する。投票率 63.6%　民主主義の後退を懸念する抗議デモが起こるが多数の参加者が警察に拘束される。集会やデモの罰則が強化される。 |
| 2014 | **クリミア半島を武力で併合** |
| 2016 | 軍や特殊部隊を大統領直属の国家親衛隊に再編し腹心をトップに据える。 |
| 2018 | プーチン、大統領に再選 。得票率 76.7%、大統領任期は 2024 年まで。 |
| 2020 | 憲法を全国投票によって改正する。自身の過去の大統領の任期をリセットし、プーチンは最長で 2036 年まで大統領職にとどまることを可能にする仕組みを構築。反対運動も起こるが反対派の集会参加者は拘束される。 |
| 2022 | **ウクライナ全面侵攻を開始**。国内の独立系メディアや反戦デモを完全に封殺する。 |
| 2024 | 反対勢力が排除された状態の大統領選で 88%の得票率を記録して 5 選。絶対的な独裁体制を固める。 |

テーマ３　最後に戦争を起こさないためには何が大切だろうか。自分なりの「問い」を立ててみよう。